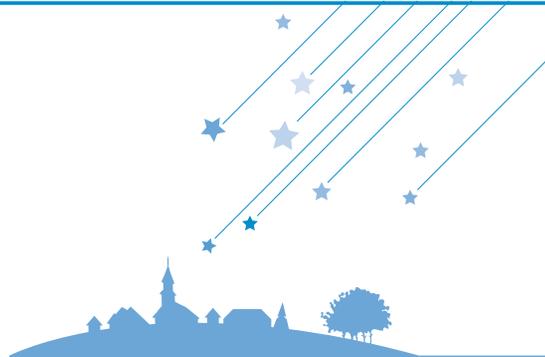


北星学園大学

後援会だより

vol.101

発行日 2010年6月1日
発行者 北星学園大学
後援会事務局
札幌市厚別区大谷地西2
丁目3番1号 〒004-8631
電話(011)891-2731
印刷(社) 北海道リハビリ



原点からの チャレンジの時代

学 長 金井 新一

若者よ大いにチャレンジしよう。
こう私は新入生の諸君に呼びかけたいと思います。私たちが置かれている今の時代、かなり閉塞感が漂っています。けれども、チャレンジ精神があればどんな困難も必ず乗り越えていくことが出来るでしょう。

皆さんは、日本の社会が「成功した社会」だという実感が無いと思いませんか。下り坂の日本しか知らないのですから当然です。もっと上の世代は、上り坂の日本の姿も見ていたのです。そこで、最近の日本人は、自信を失い、いろいろ考えてしまうのも無理からぬことです。そしてついに、オピニオンリーダーの人達が日本人はもう一度原点に戻ってやり直すべきではないか、と言い始めました。しかしその原点とは何でしょうか。それが問題です。それは、勤勉とか、モノづくりとか、真面目さとか、

か、そういうこともいわれます。そうかもしれない。このことは皆さんが大学生の間、四年間または短大の二年間、ずっと考え続けていただきたことだと思います。今すぐに結論を言わなくてもいいと思います。ただ、このことに関して、ハイน์リッヒ・シュリーマンという人が、とても参考になる日本観察を残してくれたので、それを紹介してみよう。この人は古代ギリシャのトロイ遺跡の発掘で世界的に有名になりました。彼は明治になる直前、一八六五年(嘉永十六年)に、アジア諸国歴訪の旅で日本を訪問したのです。彼の乗った船が江戸湾に入ったとき、一艘の小船が沖仲士を乗せて近づいてきました。シュリーマンはその時思ったのです。中国その他の国では、船が着くと、ワーと無数の小船がおし寄せた。物売りの小船です。

日本ではそれが一切なく、静かなのです。そしてこの沖仲士は、荷物を運び終わると「テンポー」と言って指を四本立て、天保銭四枚を要求したので。それは余りに安いので、普通ならこの四倍は要求されるとシュリーマンは書いています。この沖仲士たちはきつちり決まった額だけを求めたのです。これが最初に印象的だった日本人です。



大学生生活

後援会会長 深澤 秀則

「世にあつて星のように輝き」の建学理念のもとで二一〇年有余の歴史と伝統を脈々と継承している北星学園の大学、短期大学部を志望して、見事合格し、入学した、新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

新入生の皆さんは、この春、受験勉強の重圧から解放された、喜びや開放感に満ち溢れた、爽やかな気持ちの中、大学生活に大きな期待と夢と多少の不安を抱きながら二ヶ月近

くが経ちました。現在、皆さんは大学の機構も覚え、北星学園の「校花」であるライラックが咲き乱れ、目にも鮮やかな緑に囲まれたキャンパスで、良き友との出会いや、学業、サークル活動等で、それぞれの大学生生活を送っている時期かと思えます。

新入生の皆さんは未だ二十歳未満が大半ですが、一般的には大人としての責任が求められます。高校時代までは学校側から制約と保護があり

ましたが、大学生、短大生になると、多方面に亘り、自由と自主性が、大いに重んじられます。必然的に行動範囲も交友関係も大きく広がる中で、皆さんは様々な社会の仕組みを知り、人間模様を見聞する機会が増えますが、情報過多の現代において、世俗的な価値観にだけとらわれることなく、大学、短期大学部に入学した目的を忘れずに行動して下さい。皆さんの入学年度は、日本では新政権が発足して半年以上が過ぎましたが、一昨年のリーマンショックから一年半以上が経って、瞬く間に世界を襲った金融危機は、各国の景気対策でパンニックを抑え最悪期を脱し、世界経済は不況から立ち直りつつありますが、日本は未だに経済回復が芳しくなく、昨年十一月以来、

リーマンが間違えて書いたのです。これらのことで、シュリーマンはすっかり感心しました。日本は他の国と違うと思ったのです。これは日本のごく庶民的な人々の姿です。それがこのように誇りを持って生き、正しく仕事に励んでいる。もしかしたら、これが日本人の原点なのかもしれません。

後援会とは？

北星学園大学後援会は、本学在学学生のご父母全員と、本学を卒業された方のご父母ならびに本学の同窓生を正会員として構成されており、設立以来今年で26年目になります。

本会の目的は、北星学園大学における教育、研究活動の充実と発展に寄与することであり、「北星学園大学のサポーター」としての活動を行っております。その一例



として、図書館への本・書架の寄贈、先生方の学術出版補助、国際交流経費補助、学術講演会や学会に対する補助などを行い、学生各種活動補助については、全国大会に出場する学生に対する補助や学生の就職活動支援、就職セミナー開催、大学祭への援助、奨学金補助、サークル活動で使う器具等の購入などを行っています。

これらの活動の他に、本会は「北星学園大学」とご父母とを結ぶパイプ役として、毎年地区別父母懇談会を開催しており、大学の教職員による本学の教育方針やカリキュラムについての説明、個別に学生の修学状況等について面談を行っています。地区別の父母懇談会は、北海道内7会場(札幌・函館・苫小牧・北見・旭川・帯広・釧路)で開催しております。

後援会が開催する各行事は、ご父母の皆様が北星学園大学について知る良い機会となっておりますので、多くの会員の皆様のご出席をお待ちしております。

なお、『後援会だより』は年4回発行し、大学の情報を皆様のお手元にお届けいたします。また、後援会ホームページでも過去のものがご覧になれますので、ご高覧いただければ幸いです。

デフレ状態に陥っています。今年三月に卒業した全国の高校生はもとより、大学生、短大生の就職率は八〇%で史上最低となり、就職浪人に加えて、卒業資格がある学生に、就職留年を認める大学も現れました。皆さんは超就職氷河期の経済状況の中で、大学生活を送らなければなりません。四年間、二年間の大学生活が、長い、短い、皆さんの卒業年度に、自分自身で決める事です。将来を見据え、皆さんに平等に与えられた時間を有効に使う事が重要で

す。
北星学園大学の教育目標である「人間性・社会性・国際性」を養いながら、北星学園大学、短期大学部に入学した目的を堅持して、大学生生活を謳歌して下さい。
保護者の皆様には、後援会にご入会いただき御礼申し上げます。御支援、御協力宜しくお願い致します。





新生からの言葉

大学生活にむけて



経済学部 経済法学科
阿部 和摩

自分の北星に入学してからの目標は、まず勉強を頑張ることです。高校では時間割が渡され、その通りに授業を受けていれば良かったのですが、大学では自分で時間割を作らなければなりません。さらに授業時間も90分と長くなり、宿題の形式も大きく変わって、成績評価の方法まで変わりました。慣れるまで大変そうですが、早く慣れて、友達も増やして大学生活を楽しみたいと思います。

そして次に頑張りたいのが部活動です。大学の部活は種類が多く、どれも楽しそうなものばかりで、どれに入ろうか迷ってしまいます。今は陸上かアイスホッケーで固まってきましたが、どちらも楽しそうなので先輩方が親切なので決めかねています。しかし、どちらの部活に入っても勉強は疎かにせず、文武両道を目指していきたいです。そして受験勉強などで高校のときにはできなかったバイトもやりたいです。運動部に入るとユニホーム代や遠征費が掛かってくるので経済的にキツくなってきます。あと、社会を体験しておくと言う意味でもバイトは重要になってくるとおもいます。

まだ大学は始まったばかりですが、長い目でみると社会人になるまでは、残り僅かです。大学生活を楽しみつつ、社会人としてのマナーを身に付けていきたいです。

文学部 心理・応用コミュニケーション学科
埜瀬 ゆり恵



入学式を終え、北星学園大学の学生となってから、早くも2週間が過ぎようとしています。これまでとは違う毎日に、悪戦苦闘しながらも、充実した日々を過ごしています。

私が最も高校生とは違うと感じている所は、我が身に降りかかる責任の重さです。何もかも、自分で決め、行動し、結果を引き受ける。今まではしてきたつもりになっていただけで、本当は周囲がお膳立てして下さっていて私はただそれを頂いているだけでした。

そして、今まで築いてきたものなど何も無いという事に気づき、愕然としています。

しかしこれから何かを手に入れることなら、できるかもしれません。希望さえあるならば、どんなところでも夢は見続けられる気がします。並大抵の努力では叶わないと思いますが、それでも今の自分よりも良くなるために傷ついても苦しんでも、あきらめずに前に進んでいきたいと思っています。

これから大学を卒業するまでの4年間で、社会に出るために必要な知識や技術を学び、様々なものの見方ができるような柔軟な発想と広い心を持ち、そして精神的に成長した自立している人間になれるように、これから努力していきたいと思っています。



短期大学部 英文学科
吉田 智絵

ようやく無事に履修登録を終え、授業が始まって1週間が経ちました。毎日が新しい事だらけで入学してからあっという間に感じます。入学前は授業はどんな感じだろうか、友達はできるだろうか、など不安がたくさんありました。しかし、宿泊オリエンテーションも予想以上にとても盛り上がり、緊張もほぐれて、今は期待の方が大きくなってきました。新しい教科書も購入し、これからの授業がとても楽しみです。サークルはまだ決めていませんが、余裕が出来たら見学に行ってみようと思います。そのために、早く時間割に慣れててきばき行動できるようにしたいと思っています。

私は大学に入ってみてやりたいことがたくさんあります。第一に、私は将来英語を使う仕事に就きたいと考えているので、英語の勉強を頑張りたいです。北星ではネイティブの先生もたくさんいて、CALL教室などを使った英語教育が充実しているの、積極的にいろいろなことを吸収していきたいです。

短大の2年間はあっという間だと言いますが、短くても最大限に生かして、学生時代の今しか出来ないことに精一杯チャレンジしていきたいです。悔いを残さず、北星に来て良かったと思えるように、これから毎日一生懸命頑張ります！

社会福祉学部 福祉計画学科
高野 達郎



入学式を終え、無事北星学園大学に入学した私ですが、大学という新しい環境に様々な期待と不安がありました。初めての時間割作りは自分とりたい講義をとることができるという自由がある中に、単位を計算しながらとるなど大変さもありません。その大変さも友人やサークルの先輩方の助けを得て、乗り越えることができました。また新しい友人ができるかという不安もオリエンテーションなどを通し、友人ができた不安も吹き飛びました。不安も多くありましたが、大学生となり今まで以上に活動の場が広がる嬉しさを感じながら、サークルやアルバイトなど様々な面で積極的に活躍し、より自分という人間に磨きをかけたいと思っています。

また私は福祉についてしっかりと学び、社会福祉士の資格を取り、将来活躍したいと思っています。そのために勉強に励み、実習などを通し、直接福祉というものを感じ、幅広い視野を持ちながら現場で活かしていける力を身につけていきたいと思っています。

そして今感じている思いをこれからも忘れることなく持ち続け、長く短い人生の中でかけがえのない4年間となるように日々の一つ一つを大切に刻んでいきたいと思っています。

組織紹介

生活創造学科長 内山智	短期大学部 英文学科長 竹村雅史	短期大学部 福祉心理学科長 豊村和真	短期大学部 福祉臨床学科長 栗山隆	短期大学部 福祉計画学科長 安部雅仁	短期大学部 経済法学科長 篠田優	短期大学部 経営情報学科長 鈴木克典	短期大学部 経営情報学科長 修木克傑	短期大学部 心理学・応用コミュニケーション学科長 藪内豊	短期大学部 英文学科長 高橋克依	短期大学部長 坂内正	短期大学部長 今川民雄	社会福祉学部 社会福祉学部長 今川民雄	社会福祉学部 福祉計画学部長 中村一浩	経済学部 経済学部長 伊藤章	経済学部 経済学部長 伊藤章	経済学部 総合研究センター長 中村一浩	文学部 文学部長 山我哲雄	文学部 文学部長 山我哲雄	図書館長 山我哲雄	スミス・ミッションセンター スミス・ミッションセンター長 山我哲雄	副学長 澤田新	学長 金井裕二
センター長 国際教育センター長 原島正衛	学生相談センター長 心理臨床センター長 総合情報センター長 佐藤至	入学試験センター長 片山敏之	キャリアデザインセンター長 松本康一郎	エクステンションセンター長 後藤靖宏	事務局 事務局長 長澤武雄	事務局次長(管理・運営担当) 樋田繁治郎	企画広報課長 猪熊隆史	事務局次長(学生支援担当) 猪熊隆史	総務課長 小笠原稿幸	人事課長 佐々木律夫	財務課長 工藤孝廣	学生支援課(教務担当課長) 佐々木薫	学生支援課(修学支援担当課長) 笠松英雄	学生支援課(学生厚生担当課長) 桑原大幸	学生支援課(国際教育担当課長) 前村俊一郎	学生支援課(実習担当課長) 川原靖彦	エクステンション課長 馬場篤	研究支援課長 山田充雄	情報システム課長 高野正明	入試課長 山本博	就職支援課長 鈴木博	司書課長 宮川淳子

学術出版の紹介

『実践的マーケティング教育論—想いを伝えるマーケティング教育』

(2010年3月 共同文化社)

経済学部 西脇 隆二



本書は、私のゼミ活動を中心に実施してきた企業との協働によるマーケティング実践活動を、マーケティング教育の視点から整理したものです。私がビジネスを大学で学んでいた頃は、ビジネス理論の講義が中心で、実践的な話は少なく、会計学のような技術面の強い分野を除いては、学習しても正直あまり身に付いたという実感がありませんでした。そこで、私の授業では少しでもビジネスの現場が実感できるように、具体的な事例を数多く紹介するように努めてきましたが、それでも教室の中だけでの学習ではやはり限界があると思うようになりました。一方で、企業経営者や管理者の人々に話を伺ってみると、市場がますます成熟化の中で、新しい切り口を求めて若い人々の感性や発想に期待があることも分かってきました。そこで、私は学生たちに少しでも生のビジネスに触れてもらい、実感をもちながらマーケティングの学習をしてもらうために企業との協働プロジェクトを5年ほど前から続けてきました。特に2009年度は、北星学園大学のオリジナルワインのマーケティング実践に取り組みました。学生たちが実際に鶴沼のブドウ畑に行って収穫作業を行ない、そのブドウでワインを作り、そうして作ったワインをどのようにプロモーションしていくか自分たちで考えるという画期的なプロジェクトであり、ワインの完成発表会では、道新、読売、日経の3紙で報道されるなど社会からも注目されています。本書は、このプロジェクトの紹介を含め、このようなプロジェクト形式による教育の必要性、教育的効果、問題点などを整理したものであり、これからの時代のマーケティングやビジネス教育を考える際の参考になればと考えております。最後に北星学園大学後援会から補助を頂き、本書を出版することが

出来ました。心より感謝申し上げます。

『現代企業簿記の基礎』

(2010年3月 同文館出版)

経済学部 松本康一郎

経済学部 大原 昌明



昨年度の後援会助成金のご支援を得て、『現代企業簿記の基礎』を平成22年3月25日付で同文館出版より刊行することができました。ここに、ご報告とともに深く感謝申し上げます。

近年の簿記書は、たんなる入門書や簿記検定試験対策本の類いばかりが目立つ状況にあります。我々は、このような状況に警鐘を鳴らすべく、明解な理論的裏付け・説明を示すとともに独学にも耐えうる簿記書を刊行したいとかねてより考えていました。

そのような中、昨年春に後援会のご支援を決定していただいたことにより我々の望みが叶えられたことは、何よりも喜びでした。

本書は、本文367頁からなる本格的簿記書であり、以下のような4部構成となっています。

第I部(第1~6章) 決算整理を伴わない状況にもとづいて、企業複式簿記の基本的メカニズムを明らかにする。

第II部(第7~15章) 現預金取引・商品売買取引の簿記的意味と、決算整理の本質、さらに個人企業における資本取引の意味を明らかにする。

第III部(第16~22章) 手形取引・債権債務取引・有価証券取引の簿記的意味と、帳簿組織の基本的類型を明らかにする。

第IV部(第23~31章) 特殊売買取引の簿記的意味と、本支店会計の基本的仕組み、株式会社簿記の基本的特徴、さらに工業簿記と商業簿記との基本的違いを明らかにする。

以上の構成からも明らかのように、本書は、企業複式簿記の基本的メカニズムを必要十分に明らかにしているものと自負しております。企業複式簿記では、最初に簿記上の取引分類を13通りとするか15通りとするかを確定させる必要があります。この点について、近年の会計基準では混乱があると思われ(とくにストックオプション取引)。本書では、資本の増減はあくまで資本取引として捉えるべきであるとの考えのもと、13通りの取引分類に基づいて取引処理を示しています。さらに本書では、各章に「コラム」を設けて、企業複式簿記の今日の課題や現状、さらには企業会計の問題点にも言及しています。

我々は、本書の主な読者として簿記の理論とその処理方法をトコトン学習したい人々を想定しました。しかし、明確な基

礎理論を提示することなく、安易な簿記教育が行われがちな今日の状況を憂う我々としては、簿記・会計のとりわけ若手教育者にこそ読まれることを切望しています。

現在、日本を含めて主要先進諸国の企業会計基準は、グローバル・スタンダードとして認知され定着しつつある「国際財務報告基準(IFRS)」との共通化が進められています。2000年以降の日本の会計基準も、会計ビッグバンと称されるほどに大変革を遂げており、いまなお変革途中にあります。したがって、我々は、このたびの刊行に満足することなく、より一層の研究成果を踏まえて、本書の改訂に取り組む所存でございます。

『伝統の限界：インドネシアの農民と土地紛争』

(2010年3月 京都大学学術出版会)

経済学部 浦野真理子



この本は、インドネシア側ボルネオ島の先住民であるダヤクの村におけるフィールド・ワークにもとづいています。ボルネオ島では、1970年代以来、集中的な木材伐採が行われ、最近では大規模油ヤシ農園が拡大し、豊かな熱帯林が急速に減少しています。この本では、おもに2つのことを書きました。第一にダヤク社会に100年ほどの間に起きた変化です。村のお年寄りたちが話してくれたことですが、20世紀初頭以来、オランダの植民地支配、日本軍の支配、そしてインドネシア政府による統治の過程で、精霊信仰やロングハウスなどの伝統文化は「遅れている」として差別され多くが消えていきました。しかし、キリスト教への改宗や学校教育の普及などによって、伝統的な貴族制度など社会の抑圧的な部分に内部から少しずつ批判が起きているという一面もあります。第二に、森林開発企業との間に起きている土地紛争です。今でも現地の主な生活の手段は焼畑農業でのコメづくりですが、インドネシアの法律では森林は国の所有なので、ダヤク農民は土地を慣習的に利用しているだけの弱い立場です。土地権が確立していないので、ゴム、ココアなど自律的な小規模換金作物の栽培をしても立ち退きを命じられる危険があります。油ヤシ農園の拡大による急速な環境破壊を防ぐためにも、ダヤク農民の貧困を解決するためにも、地域住民の土地権を確立することが重要です。ダヤク社会が経験してきた政治・経済上の大きな変化を踏まえると、農民たちが土地を失わないように十分な対策を講じたうえで、「個人の土地所有」を確立することが有効だと思われます。出版費用の一部を補助いただいた後援会の皆さま、そして、研究に必要な環境を整えていただいた北星学園大学、先生方、職員の方々、学生さんたちのご支援に心から感謝いたします。

ご相談ください
 授業料等学費につきましては、毎年、期限までの納入をお願いしているところですが、学費に関する諸制度についてお知らせいたします。
 詳細は今年度のキャンパスガイド二十九頁、及び大学公式ホームページ(<http://www.hokusei.ac.jp/kokusai/>)「保護者の方へ」→「学生生活」→「学費に関するQ&A」をご参照ください。
各種減免制度
 ○兄弟姉妹等同時在学減免

入学式開催
 四月五日の午後一時より、二〇一〇年度の入学式がニトリ文化ホールで開催されました。当日はまだ冬の寒さが残る中、ご父母の方々も多数出席してください。会場は満席となりました。そのなかで、短大部と大学四学部、大学院を含めた新入生総数約二二〇〇名が、緊張した面持ちで晴れの日を迎えました。式はオル

兄弟・姉妹等で同時に二名以上が一年を通じて在学されている場合、そのうちお一人以外の方の「教育充実費」及び「後援会費」を全額免除いたします。願い出にあたっては、戸籍謄本の添付をお願いしております。
財務課までお申し出ください。
 ○身体・精神障害者減免
 学部、大学院又は短期大学の学生で身体障害者手帳もしくは精神障害者手帳をお持ちの場合は「教育充実費」の二分の一を免除いたします。財務課までお申し出ください。

ガンの前奏によって幕を上げ、一同による讃美歌「いつくしみ深き」の合唱の後、チャプレンが聖書を読み上げ、祈禱を奉げました。次に、学長の式辞があり、学園長から祝辞が贈られ、在学生代表から歓迎の言葉がありました。そして、大学院・大学・短期大学の各新入生代表から、それぞれ誓いの言葉が述べられました。その後、吹奏楽部とチャペル・クワイアが、谷川俊太郎氏作詞の学歌を披露し、「再び一同で讃美歌」とあ



後援会から新入生へのプレゼント
 後援会では、毎年新入生の皆さんに入学記念品をプレゼントしております。今年度は昨年度に引き続き、南アジアの国バングラディッシュの手工芸品をお贈りいたしました。オリジナルのトートバッグとポストカードを配布致しました。これらの品々は、本学の教員と学生でつくるフェアトレード団体、「北星フェアトレード」が現地の生産者と直接連携して製造・輸入したものです。
 トートバッグは若手のデザイナーと職人が協働して作成した、斬新でユニークなデザインで、素材もジュートという土に還る自然素材を使用しています。

また、バッグの内側には北星学園大学の校章とロゴが入ったタグが縫い付けられており、北星学園大学の新入生のために作成された、まさにオリジナルの製品となっています。
 どちらも、現地の生産者が心を込めて製作した特別な品々です。これを期に、広く世界に興味関心を持ち、校章の五角形が意味する、人間性・社会性・国際性を身に付け、希望を持ち、発展を遂げるべく充実した大学生活を送られるよう心から願っております。



た。最後は、チャプレンによる祝詞と、オルガンの後奏によって約一時間一〇分の入学式は無事終了いたしました。式を終えた新入生達はほっとした様子で、ご父母の方と楽しそうに会話をする姿、会場の前で記念撮影をする姿、先輩達のサークルの勧誘に明るい表情で応える姿が数多く見られました。これから始まる北星学園大学での生活にはたくさんの可能性が広がっていることと思います。その可能性を最大限に生かし、大学生活で得たものが一生の宝物となるように、充実した日々を送っていただけるよう願っております。

2010年度 行事予定

4月	5日(月) 入学式 6日(火) オリエンテーション(～10日) 7日(水) 定期健康診断(～8日) 12日(月) 前期授業開始 授業科目履修登録開始 16日(金) 授業科目履修登録締切	8月	2日(月) 『後援会だより』第102号発行 前期授業終了 3日(火) 前期定期試験(～8月13日) 28日(土) 函館地区父母懇談会 29日(日) 苫小牧地区父母懇談会	12月	1日(水) 『後援会だより』第103号発行 17日(金) クリスマス礼拝 27日(月) 年末最終授業日
5月	2日(日) 学園創立記念祝日 10日(月) スミス・ミッション週間(～15日) 28日(金) 後援会第1回役員会	9月	4日(土) 旭川地区父母懇談会 5日(日) 北見地区父母懇談会 11日(土) 釧路地区父母懇談会 12日(日) 帯広地区父母懇談会 21日(火) 後期授業開始 30日(木) 前期末卒業式	1月	20日(木) 後援会第2回役員会 24日(月) 後期授業終了 25日(火) 後期定期試験開始(～2月4日)
6月	1日(火) 『後援会だより』第101号発行 4日(金) 体育祭(～6日) 12日(土) 後援会総会・懇親会	10月	8日(金) 大学祭(～11日) 29日(金) 宗教改革記念講演会(仮) 30日(土) 第2回 札幌地区父母懇談会 (全学年対象)	3月	4日(金) 卒業者名簿発表 14日(月) 卒業礼拝 15日(火) 卒業式 『後援会だより』第104号発行
7月	3日(土) 第1回 札幌地区父母懇談会 (3・4年次、短大2年次対象)				



2010年度 総会・懇親会での就職講演会のご案内

前月号でお知らせした六月十日(土)に大学校内にて行われる、北星学園大学後援会総会・懇親会のご案内を申しあげます。総会では後援会事業活動における二〇〇九年度活動報告・決算や、二〇一〇年度の活動方針等の審議が行われ、終了後には父母向け就職講演会の開催を予定しております。今年度は、就職支援課長(鈴木淳子)より、最近の就職活動状況についてお話しさせていただきます。

『イマドキの就職活動』

「三〇年前とは様変わり」
ご父母の皆様が就職活動を行ったのはざっと三〇年ほど前。経済、社会情勢の変化やITの進歩により、昔とは大きく様変わりした就職活動。ご自身が就職活動をしていた時代と、現在の就職活動はどう違うのでしょうか？
最近の「シユウカツ」事情と、本学の就職支援体制、就職活動の準備段階として重要視されている低学年支援についてもご説明いたします。また、最新の内定状況等についてもご報告させていただきます。
親としてお子さんの就職活動にどう接するべきかのヒントになればと考えています。



就職支援課長
鈴木 淳子
【学内略歴】
1976年4月北星学園大学勤務、学務課長、学生課長を歴任
2005年4月から就職支援課長(現在に至る)
【学外での職務及び活動】
2008年4月
日本私立大学協会就職委員会委員(現在に至る)
1998年8月
大学行政管理学会 会員

2010年度 地区別父母懇談会のお知らせ

今年度の地区別父母懇談会は下記の日程で計画しております。懇談会では、大学の情報や、学生の修学状況等についての説明、昼食を取りながらの父母同士の懇談、個別に学生の修学状況(単位修得)、学生生活状況、及び就職関係の相談などができる個別懇談を実施いたします。

履修している授業科目等がわかる「履修登録票」や「授業科目別出席状況」、前年度までの修得単位数とその評価がわかる「成績通知票」などを個別にご用意して、それに基づいて担当教員より説明を聞くことができます。毎年参加された皆様からは大変好評を頂いております。(ただし、個人情報保護に関する法律により、成人となった学生本人が所定

の手続きにより同意しない旨申し出た場合は、修得単位数等、修学状況に関する情報を保証人にお伝えすることができないこととなりますので、あらかじめご了承願います。)

地区別父母懇談会は北星学園大学後援会の事業の一環で、皆様からの会費により運営しております。多くの会員の皆様のご参加をお待ち申しあげております。

7月 3日(土)	札幌会場	北星学園大学校舎(3・4年次、短期大学部2年次対象)
8月28日(土)	函館会場	ロワジュールホテル函館
8月29日(日)	苫小牧会場	グランドホテルニュー王子
9月 4日(土)	旭川会場	旭川グランドホテル
9月 5日(日)	北見会場	ホテル黒部
9月11日(土)	釧路会場	釧路プリンスホテル
9月12日(日)	帯広会場	帯広ワシントンホテル
10月30日(土)	札幌会場	北星学園大学校舎(全学年対象)

ホストファミリー大募集!

～ご家庭で国際交流を～

北星学園大学では交換留学生のホストファミリーを募集しております。受け入れ期間は1学期(15週間)で、その間の食住費として一定額の補助をさせていただきます。彼らは、日本語と日本文化を中心に学びますが、多くの留学生が日本で一番印象に残った体験としてホームステイを挙げています。ホストファミリーとして登録していただきますと、年に2回、春と秋に「今学期の受け入れは可能ですか」という照会を大学からさせていただきます。ご都合の良い場合には受け入れをお願いするというシステムになっています。皆様のご家庭でも留学生を迎えて国際交流をしてみませんか? 本学のホームページから国際教育センターのサイトもご覧いただけます。ご協力をお願いいたします。

お問い合わせは下記のところまで・・・
北星学園大学 学生支援課 国際教育係
電話(代表)：(011) 891-2731 FAX：(011) 895-2500
ホームページ：http://www.hokusei.ac.jp./kokusai/

北星学園大学教育振興寄付金ご芳名

寄付 ☆大学・短期大学部
(一般) 株式会社 セノン
株式会社 朝日新聞社
(元教職員) 柳瀬 尚
山元 周行
募金の協力に深く感謝
申しあげます。
二〇一〇年二月一日から
二〇一〇年四月二十日まで
(敬称略)

あとかぎ

北海道もようやく初夏の訪れを感じられる頃となりました。新入生もそろそろ大学生活に慣れてきたようで、キャンパスには賑やかな学生達の活気が満ちています。さて、六月十二日に後援会総会が、七月三日には札幌地区父母懇談会が本学にて開催されます。総会では、施設見学や父母向け就職講演会も予定しております。また、七月の札幌地区父母懇談会はもちろん、夏からの地区別父母懇談会の方も、皆様に満足していただけるよう、準備を進めております。今年度も多くの会員の皆様にお会いできることを楽しみにしております。
(後援会事務局 大野)